

こども園公開は、平日にも関わらず参加していただきありがとうございました。子どもたちは、保護者の方々の前で少し緊張したり、嬉しさから興奮したりする姿が見られましたが、日頃の保育の様子や7月の頃に比べて少し成長した子どもたちの姿を見ていただけたことと思います。

～アンケートのご協力ありがとうございました！～

たくさんのご感想・ご意見をありがとうございます。一部ですがご紹介します。
皆様のご意見は、今後の園生活や行事に生かしていきます。

- ・好きなことに一途に取り組んでいる様子が見られて、「家での様子と同じだな」「好きなことにじっくり取り組みたいのだな」と思いました。
- ・夏の参観のときよりも子どもたち同士で関わって遊んでいる感じがしました。
- ・他の学年とも同じ時間に遊んでいて、年齢を越えて交流できているのがよいなと思いました。
- ・前回よりも給食時に落ち着いて食事ができ、成長を感じました。

自然に触れながら…

こども園の園庭では、10月頃から木々の葉が色づき、落ち葉が落ちている様子が見られ、秋の季節が感じられます。「きれいな葉っぱを見つけたよ」「赤も緑もあるよ」などと言いながら、落ち葉に目を向けていく姿が見られます。9月のくぬぎの庭や、10月末に行った神谷堀公園遠足には、どんぐりがたくさん落ちていて、はな組の子どもたちは目を輝かせながら拾っていました。落ち葉やどんぐりは、拾うだけでなく、その後様々に使って遊んでいます。

9日の焼き芋では、4、5歳児が芋を火に投げ入れる様子や、先生たちが火の世話をしている様子を見ると、直後に、焼き芋をしている隣の場で、はな組の焼き芋ごっこが始まりました。まずは、園庭の落ち葉集め。4、5歳児に「緑のものとイチョウの葉っぱはだめだよ」と聞くと、葉の色をよく見て集めていました。たくさん集まると、「(周りを囲う)レンガが必要だね」「先生たちみたいな(落ち葉を広げる)長い棒がほしい」と言い、自分たちなりに焼き芋の場を再現しようとしていました。その後、画用紙で作ったさつま芋を、4、5歳児のように新聞紙で包んで投げ入れたり、先生たちと同じように長い棒で落ち葉や投げ入れた芋を広げたりして遊んでいました。本当の焼き芋ができあがると、はな組の焼き芋も完成！できた焼き芋を自分たちで食べたり、先生たちに食べてもらったりしてうれしそうにする姿が見られました。



焼き芋の火が、
大きくなってきたね

見た経験が、
焼き芋ごっこに…



先生みたいに落ち葉や
お芋を広げているよ

どんぐりは、色や形が違うことに気付いて仕分けしてみたり、どんぐりに絵の具をつけて、紙の上で転がしてできる模様を楽しんだりして遊んでいます。段ボールの板を坂にして転がすどんぐり転がしでは、縦半分に切ったペーパー芯をつなげ最後まで転がるか試したり、転がってきたどんぐりをキャッチしたりし、自分なりに考えながら遊ぶ姿が見られます。また、粘土と組み合わせて「どんぐりケーキ」を作る姿も見られ、秋の自然を使って遊ぶことを楽しんでいます。

どんぐりを
転がして、
色をつけたよ



どんぐりが下まで
転がるかな



いらっしゃいませ！
どんぐりケーキ屋さんです



園庭や花壇には、様々な木の実も落ちています。落ちているザクロやミカンを剥き、匂いを嗅いでみたり、ままごとに使ったりし、幼児なりに様々に自然に関わりながら遊んでいます。10月末には、夏にはな組が育てていたヒマワリから、種を取りました。たくさん種が取れたので、小さいペットボトルに入れて「ヒマワリマラカス」を作ることになりました。音が鳴ることに面白さを感じて何度も振ってみたり、マラカスを持ちながら音楽に合わせて踊ると動きによって音が出ることに楽しさを感じたりしていました。ヒマワリの種を触ってみると、サラサラ・ツルツルしていることに気付き、感触を楽しむ様子も見られました。

ヒマワリの種を
いっぱい入れよう



ヒマワリの種はサラサラして
気持ちいいな



みかんからいいにおい
がするよ



こども園では、身近な自然の不思議さや面白さに直接触れる体験を大切にしています。例えば、一つ一つの落ち葉をよく見て、色や形、大きさの違いに気付く、関心をもつ、ということは、学びの基になります。自然に関わったり、取り入れて遊んだりする中で、幼児なりに「何だろう」「面白いな」と心動かされる体験は自然への好奇心や探求心につながりますね。



おたんじょうびおめでとう

今おさえたい生活習慣 ～歩く・自分の物を自分で持つ～

10月末に、年中児と一緒に神谷堀公園遠足に行きました。はな組にとっては、初めて少し長い距離を歩く遠足でした。遊具やどんぐり拾いを楽しむ姿があった一方で、行き帰りはすぐに疲れる様子や歩き慣れない様子が多く見られました。

登降園時、お子さんは歩いていますか。すぐに抱っこやおんぶをしていませんか。お子さんは、自分の荷物を自分で持っていますか。

子どもたちには、歩くこと・自分の物を自分で持つことの大切さを知らせています。最近、登降園時に歩いている幼児や荷物を自分で持っている幼児をみんなの前で紹介する時間を作っています。お子さんが抱っこやおんぶを求めることもありますが、「ここまでは歩こう」と決めて少しずつその距離を伸ばしていったり、保護者の方と競争して遊び感覚で歩けるようにしたり、歩く姿や自分で荷物を持つ姿をたくさん褒めたりするなど、保護者の皆様もぜひ意識をしてみてください。今まで抱っこやおんぶが多かった人は、まずは、こども園の中は自分で歩き、荷物も自分で持つというところから始めてみましょう。

歩くことは、生活の基本動作です。以下のような発達にもつながります。

- ☆体力がつく ☆筋力がつく ☆体幹がしっかりする ☆心肺機能を高める
- ☆手指が動かせるようになる⇒脳が発達する
- ☆自分の足で自然や社会に触れることで五感が刺激される
- ☆質のよい睡眠につながる ☆食欲が出る
- ☆交通ルールが分かるようになる

進級すると、4月末から歩いて遠足に行くことが増えます。5月には都市農業公園への遠足もあります。年少児のうちから、子どもたちが、自分の力で歩くことに自信をもち、したいことを思い切り楽しめるようにしたいですね。

着替え・着替え袋などについて

季節の移り変わりとともに、着替え袋の中身の確認をお願いします。こども園では、基本的に冬でも半ズボンで過ごします。寒いときには半ズボンの下にハイソックスなどを着用してください。体調などの理由から長ズボンを履くときには、お子さんが一人で着脱しやすいものをご用意をお願いいたします。尚、着替え袋の中には気温に合わせて衣服の調節がしやすいように、いろいろな種類の服（薄地の長袖、トレーナーなどの厚手の長袖、短い靴下、ハイソックス、半ズボンなど）を入れておいてください。

3歳のうちは、ティッシュは園の物を使いますので、個人のポケットティッシュは必要ありません。

防寒着について

以前配布した防寒着についての手紙にも記載してありますが、基本的に教育時間中の遊びでは上着は着ません。夕方の遊びで着ることはあります。置き場所は以下になります。

- ・登降園用の防寒着（コートなど）…リュックの下のフックに掛けてください。
- ・外遊び用の防寒着…表示のあるフックスタンドに掛けてください。

※自分の物はどれか、いつ着る上着が分かるように、お子さんに伝えてください。

※どちらもフックに掛けられるように、ループ（紐）をつけてください。

※必ず記名をしてください。

※外遊び用の防寒着は、毎日持ち帰ってください。